

秋の総代懇談会のご報告

10月11日～29日 27会場で開催

よどがわ市民生協は、組合員さん一人ひとりの「声」を大切に、組合員さんを主人公として、事業・活動を通じて『笑顔ひろがる 豊かな暮らし』を実現します。生協といっしょに「これから」を考える組合員の代表『総代』さんが各地域で集まり、『6月の通常総代会議案への意見について、理事会としての受け止め』『事業・活動の進捗状況と下半期の課題』について報告を行い、続いて『暮らしの状況』について交流しました。



2022年度上半期(4～9月度)の事業・活動報告

共同購入事業

- 供給高は計画比104.4%。組合員の利用をサポートするエリアスタッフを配置しました。
- 値上げが続く中、暮らしに役立つ情報を共有することを目的に『生活の知恵を広げるアンケート』を実施し、結果を機関紙やホームページで報告しました。

夕食サポート事業

- 組合員や地域の声に応じて、新たに「カロリーサポート」コースを開始しました。
- インターネットで、注文の数量変更・キャンセル・種類変更・利用再開が可能になりました。

福祉事業

- 吹田市社会福祉協議会などの地域団体と連携し、介護フェアを2回開催しました。

組合員活動

- 4年ぶりに新規コープ委員会が2つ(高槻・吹田)設立しました。
- ロシアのウクライナ侵攻で、あらためて平和の大切さについて学ぶ学習会を開催しました。

豊かな社会、地域づくりの取り組み

- 社会福祉協議会(社協)との懇談を行い、各社協の問題意識や困りごとの聞き取りを行いました。
- 茨木市や宮農組合と連携し、茨木北部にて田植え・稲刈り体験を実施しました。
- 機関紙よどがわを8月号よりページ増・カラー化し、情報量を増やしました。

生協運営にあたってのルール順守

- 組合員が転売目的で、生協商品を大量に注文する事例が発生しました。生協は必要な商品を共同で購入しわけあうことを大切にしています。生協事業の意味とルールの周知をすすめます。
- 退職した提携委託先の配送担当者が、組合員宅を訪問し、現職の保険営業を行うという、不正な個人情報の取り扱い行為が発生しました。仕事の目的、協同組合の意味を学ぶこと、個人情報の適切な取り扱いに関して具体的な事例をあげ、学習を強化します。



総代会にむけて寄せられた声の受け止めの報告

- みんなが笑顔になる食や暮らしを実現する事業を！
 - 国産品を大事に、生産者と組合員と一緒に課題について学び、話し合う。
 - 生産者との継続性のある関係づくり
- 知りたい、学びたいを大切に、誰もが参加できる活動を！
 - 組合員が気軽に参加できる機会を増やす。
 - 1人ではできないことが生協ではできる。ワクワク感や楽しさ。
- ありたい社会・地域づくりへの想いを広め、協同を！
 - 生協らしさを活かした子ども食堂との関わりや地域団体とのつながり。
 - 平和・環境問題への取り組みを継続。
- 持続可能で発展し続ける生協をめざし、将来へ備える！
 - 働く人の労働環境の改善。働き続けられる環境づくり。
 - 経済的厳しさや大規模災害にあっても持続可能な財務・人材育成。

今回いただいたご意見をもとに、生協の事業・活動のすすめ方などをまとめ、年度末総代懇談会でご報告し、次年度の方針づくりをすすめます。



005 事業継続計画 (BCP)

生協で働く人を守る = 事業を守る

日本では、毎年、各地で集中豪雨や台風、地震などによって、大きな被害が発生しています。河川の氾濫、道路の寸断、長期にわたる停電などの被害に見舞われると、今までの生活が一変し、多くの人々が困難に直面することになります。生協の事業活動においても同様で、働く人や車両、施設の被害状況によって、事業活動の継続が危ぶまれてしまいます。

そのため、よどがわ市民生協では、人命を最優先とし、事業活動を少しでも早く再開することができるように『事業継続計画 (BCP)』を策定しています。

日頃から防災意識を持つ

「事業継続計画 (BCP)」の内容は、「災害への備え」「災害発生時の初期行動」「事業復旧計画」です。この計画は作っただけでは意味がないため、定期的に見直しを行いながら、対応する訓練(安否確認訓練、避難訓練、施設の点検など)を行なっています。

また、一番大切な家族を守るための防災意識の向上を目的に、提携委託先の配送担当者も含めた防災アンケートにも毎年取り組んでいます。



よどがわ市民生協が食材提供をしている団体紹介

団体名:【子ども食堂 ぼのぼ～の発行委員会】

住所 千二地区公民館 (吹田市千里山東2丁目19-23)

連絡先 090-5663-7227

元働くママから子どもたちへ

2018年頃、子どもが悲しい思いをする事故や事件が後を絶たない日々が続きました。昔、保育園を利用しながら働いてきたお母さんたちが、定年退職し、少し時間ができた中「何か今の子どもたちにしてあげられることはないかしら？」と井戸端会議で話したことがきっかけとなり、子ども食堂を立ち上げることになりました。



子どもたちの「おいしかった!」「楽しかった!」の言葉と笑顔に励まされながら、毎月子ども食堂を実施してきましたが、2020年2月からコロナ感染対策のため、『ぼのぼ～の』も休止になりました。

コロナ禍で食堂から食材提供へ

2020年5月から『ぼのぼ～の』の対象者である中学生以下の子どもを育てている家庭へ食材

提供をしています。この取り組みでは、近郊の農家さんや多くの市民・企業のみなさんから、お米や野菜など心温まる寄付をいただき、運営を継続できています。

コロナさえ終息すれば、子ども食堂の「楽しい、おいしい」を再開したいと考えています。



学習支援

昨年7月から保護者の要望もあり、学習支援の取り組みを月2回のペースで実施しています。元教師や大学生が、子どもの自主性を尊重しつつ意欲的に取り組んでいます。多くの子どもたちが気軽に利用してもらえたらと思っています。



1人ひとりの力は小さくても、力をあわせると、ささやかでも子どもの笑顔が見られると嬉しい。子どもの笑顔いっぱいの社会であってほしいです。